

これがオススメ! 読み聞かせ本

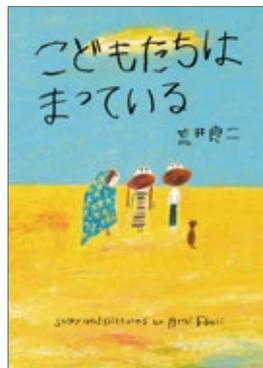
全学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

子どもたちは、荒井良二の絵本が好きです。なぜなら本を開いたときの驚きを楽しめるからです。伝えたい思いを筆遣いに込め、鮮やかな色彩で表現する荒井良二の世界は、大人をも魅了します。今回は、色彩が印象的な、心に残る本を紹介いたします。

荒井良二は、絵本作家としてたくさんの児童文学賞を受賞し、国内外で高い評価を得てきました。その才能は、舞台美術やワークショップ、音楽活動など幅広い分野に及びます。子どもたちと一緒に関戸を掘って、即興で絵を描いた話を聞いたとき、芸術家はなんて面白いことを思いつくのだろうと感心しました。

2011年、東北地方太平洋沖地震で日本中が悲しみや不安に押しつぶされそうになった年「あさになったので まどをあげますよ」の絵本が出版されました。



こどもたちは まっている

荒井良二・著
(亜紀書房)

とても美しい本で、最後のページにある窓が開く絵からは、「未来と一緒に生きよう」という声が聞こえて来るようでした。すぐにいろいろな場所で読み聞かせをしました。

「コロナ感染拡大が続く中、子どもたちに届けたいのが『子どもたちは、まっている』です。ページを開くと、朝の光が水平線から海や空を染め、船を待つ窓辺の子どもたちのところまであふれ輝きます。黄色の光は、希望の光に違いありません。雨が止むのを待ち、夏草の匂いの中で猫が出てくるのを待つ。お祝いの日を待つ。待つ時間の後に喜びの時間が必ず訪れることに子どもたちは気づくでしょう。

この本は、荒井良二が絵本を作る原点を追求した二冊です。絵をゆっくり鑑賞するつもりで読み聞かせるのがお勧めです。